

# 左が行く 介護施設探訪!

明日から実践したい  
気づきと学びが  
ここにある。

## 第1回

### 夢のみずうみ村浦安デイサービスセンター

## 利用者のために

## リスクを背負う

## 覚悟が求められる

### 良いアイデアは皆で共有する それが利用者のためになる

**左** 貴社のデイサービス、特にリハビリの理念が注目されています。

**藤原** リハビリについては、従来の「雀の学校」方式ではなく、自己選択・自己決定方式が良いと言われています。高齢者の意思を引き出すことで、次の介護サービスに繋がりますから、身体を動かすには、まず心を動かす必要があります。これからのリハビリは精神機能、つまり心や意思を動かすことが大事で、我々はこれをメインにしています。

**左** 厚生労働省には、貴社を一つのモデルにしようという考えがあるのでしようか。

**藤原** 厚労省の方とは「質の高いサービス」について議論を重ねています。

**左** 介護事業を志す全国の若者にアドバイスを。

**藤原** 「リスクを背負え」ですね。弊社では、利用者が自宅や地域で、ご自分で動けるようになっていただけたら、階段などのバリアを意図的に施設内に配置し、その克服に職員と一緒に取り組んでいただきますが、事故が起きるリスクはゼロではありません。ご家族も危険が伴う訓練にはなかなか同意されませんが、本当の意味で利用

す。ただ、弊社の施設は利用者の要介護度を下げていくことが目的ですが、要介護度が下がると利用者の単価が下がり、収益が見込めず運営が苦しくなる。この矛盾を解消するために、国は機能を改善した施設にお金を出すべきだと申し上げていますが、厳しいですね。

**左** 貴社では施設を見学者に開放していますが、その意図は?

**藤原** かつて大森彌先生(政治学者、東京大学名誉教授)が私におっしゃった「夢のみずうみ村は通所介護施設の標準だよ。全国どの施設でも始まる」といね」との言葉に感銘を受けて実行しただけです。何を真似しても、何を盗んでも良い。ただし、夢のみずうみ村から学んだと言ってはならない。自分で考えた、わが施設が始めた

**左** 多くの人が教えを請いに来られていますか?

**藤原** 介護事業を志す方々が訪ねて来られますが、F・C希望は、すぐには話を聞かず、半年後に改めて介護の志を尋ね、それでも強い気持ちがある人だけ話し合いの場をもちます。F・C契約を結んだ事業所も7つあります。ある事業所から「F・Cの2店目を

言いなさい」と話しています。良いと思っただけで真似をしてほしい。良いアイデアは多くの施設で共有し、質が高まることは、最終的に儲かる経営につながり、利用者のメリットにもなる。そういう社会運動になれば良いと思っています。

**左** 利用者によかれと思うならリスクを背負う必要がある

**藤原** 介護事業を志す方々が訪ねて来られますが、F・C希望は、すぐには話を聞かず、半年後に改めて介護の志を尋ね、それでも強い気持ちがある人だけ話し合いの場をもちます。F・C契約を結んだ事業所も7つあります。ある事業所から「F・Cの2店目を

**左** すべてが繋がっているんですね。

**藤原** 団塊の世代のテーマは健康で



施設内に巨大な階段を意図的に設置している

日本介護協会の左理事長が行く全国の介護事業所訪問。第1回は理事長がかねてより訪れたかったという「夢のみずうみ村」。藤原茂代表との対話は、介護事業者の可能性を大きく広げるものとなりました。(文中敬称略)

### 千葉県・浦安市 夢のみずうみ村 浦安デイサービスセンター

株式会社夢のみずうみ村  
全国4拠点でデイサービスを展開。「生活を楽しむためのリハビリ」をコンセプトに、利用者の能力を引き出す独自のプログラムを多数開発している。

☎ 047-304-6051

所在地/千葉県浦安市当代島2-13-27  
<http://www.yumenomizuumi.com/>



者によかれと思うことを実行するためには、リスクを背負い、どんなことがあってもやるんだという覚悟が必要ですよ。

### 自宅でのリハビリを促すために デイサービスの手法を「街」に拡大

**左** デイサービスの課題は?

**藤原** 弊社の施設に來られて要介護度が改善した利用者はたくさんいらっしゃいますが、問題は施設で取り組んだことを、自宅に帰ってから実行されないことなんです。ご自宅での実行・実施率をどれくらい向上させていけるか、これが課題であり、業界全体でアイデアを競い合うべき重要テーマだと思います。

**左** 貴社の考え方は?



藤原代表(左)と左理事長(右)。憧れの人との対面です

**藤原** 我々が施設内で取り入れている手法を、街づくりに広げる試みをしています。愛知県高浜市の「健康自生地」という街づくり事業は、街中に点在する施設ごとに、さまざまな健康プログラムを用意し、住民各自の都合に合わせて、各施設を回ってプログラムをこなしていくというものです。たとえば、豆腐づくり体験や、高浜の特産である鬼瓦のオリジナル細工体験、公園の散策、図書館での読書会など、健康増進効果を持つプログラムの場を健康自生地として認定します。

市民は市内の各健康自生地を巡り、その利用履歴を弊社が記録・分析し、利用者ごとの「人生の現役認定」をすすめる予定でしたが、システム開発が遅れたので、残念ですが、高浜市はマイルージ登録方式で展開しておられます。こうした環境が自宅周辺に整っていれば、介護施設に頼ることなく、高齢の方々に自主的にリハビリを進めていただけるでしょう。将来的には健康自生地を全国に広げていきたい。そのためには、私たちと考え方を同じくする介護施設がたくさん必要です。私が夢のみずうみ村のノウハウを真似してほしいと言っているのは、そのためなのです。

す。健康になれる街づくりのために、介護施設が中心となって街づくりを進めていく必要があります。かつて寺社を中心に寺町が形成されたように、介護施設を核として街が発展する。これは、厚労省が通所サービスに求める「地域連携機能」そのものです。これからの介護事業者は、もはや介護だけを考えているのは駄目ですね。この健康自生地による街づくりで、東北の復興に繋がる取り組みを進めていきたいと思っています。

**左** 本日はありがとうございました。

### PROFILE



夢のみずうみ村 代表  
**藤原 茂** Fujiwara Shigeru  
1948年山口県生まれ。作業療法士、社会福祉法人夢のみずうみ村理事長、株式会社夢のみずうみ村代表取締役、琉球リハビリテーション学院長。都立府中リハビリテーション専門学校作業療法学科卒業。